

しゅう り たい けん
修理体験ツアー

ふく おか じょう
in福岡城

ジュニアガイド

ふく おか じょう
福岡城のむかし
・いま・みらい

ふくおじょう
福岡城はいつからあるの？

「やぐら」ってなに？

どうして修理してるの？

などのギモンにまた答える1冊！！

① 福^{ふく}岡^{おか}城^{じょう}のむかし

福^{ふく}岡^{おか}城^{じょう}は今^{いま}から410年^{ねん}前^{まえ}の1607年^{ねん}につくられました。つくったのは黒^{くろ}田^だ官^{かん}兵^べ衛^えと黒^{くろ}田^だ長^{なが}政^{まさ}の親^{おや}子^こです。その頃^{ころ}の日本^{にほん}では大^{おお}きな戦^{いくさ}がおきていて、官^{かん}兵^べ衛^え親^{おや}子^こは将^{しょう}来^{らい}の戦^{いくさ}にそなえるため、ここ^{しろ}に城^{しろ}をつくりました。

城^{しろ}には敵^{てき}を見^みつけて攻^{こう}撃^{げき}するた^ため^めの「やぐ^{やぐら}ら(櫓)」とい^たう^た建^た物^{もの}と、敵^{てき}を近^{ちか}づけ^づけ^けないよ^ようにする石^{いし}の壁^{かべ}=石^{いしがき}垣^{がき}がつく^{つく}られ^られ^れました。福^{ふく}岡^{おか}城^{じょう}にはこの櫓^{やぐら}が47もあ^あった^たそ^そう^うで、南^{みなみ}から^から^らの敵^{てき}を見^み張^はって^ていた^たのが、多^た聞^{もん}櫓^{やぐら}です。



くろだかんべえ
黒田官兵衛



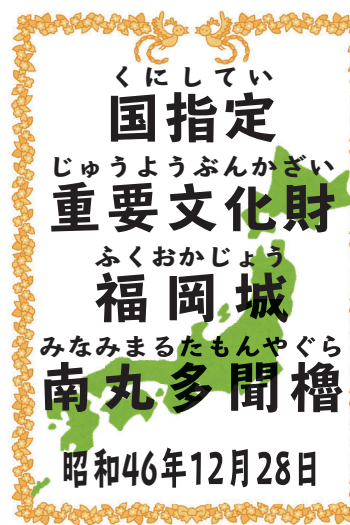
② 福岡城のいま

福岡城はその後、戦につかわれませんでした
が、300年もの月日が流れ、城内の櫓も
こわれたり焼けたりしてなくなってしまいま
した。ただ一つだけ残ったのが多聞櫓です。

多聞櫓は福岡のみならず日本の宝であると
して国から「重要文化財」に指定されました。

約40年前には多聞櫓と石垣の大きかりな
修理がおこなわれ、1975年に完成しました。

以来、多聞櫓は台風や地震などにも耐え福岡
城を代表する建物として親しまれています。



文部科学省

③ 福岡城のみらい

櫓は木と土でできているため、大事に使っていても少しずつこわれてきます。前回の修理から40年以上たち多聞櫓もぼろぼろになってきました。建物を健康に保つには、柱や瓦をかえ、壁をぬり直す必要があります。

また、日本の宝として多聞櫓を昔の姿のまま残していくには、昔と同じ素材・やり方で修理しなければなりません。修理現場では昔ながらの技術をもつ職人さんたちが多聞櫓を未来へ伝えていくためにがんばっています。

